

## ～2年目のリスタート～



**F.C.S** 社会福祉法人  
福岡ケアサービス  
特別養護老人ホーム「初花」

種別:ユニット型特別養護老人ホーム  
定員:54名 (9人×6ユニット)

## 2年目は突然メンバーに任命！？

### メンバー総入れ替え！

メンバーが総入れ替え！介護職員3名を中心に再スタート！

ノーリフティングケア委員会を改めて設置し直す

マネジメント研修も4期生と共に研修できるように事務局の方より調整していただく

### 新メンバーに任命されて

恥ずかしながら、私たちも任命されるまで昨年度、具体的に何が行なわれていたかを分かっていなかった…

### 昨年の反省を活かして

これ以上、同じ失敗を繰り返さないようにまず1年目の振り返りを行い  
**反省点**をまとめた

## 1年目の反省点

### 教育

・コロナクラスターや、技術研修の伝達は業務を都合にし、うまくできず1年目は、ほぼ未実施に終わる  
・働きかけを行うも、そもそも多くの職員がノーリフティングケアの取り組み自体の意義や必要性を理解できていない状態だった

### 福祉用具

・スライディングボード、リフト使用の導入を試みたが「ボードが小さすぎる」「ボードが車椅子のタイヤにあたってやりづらい」「かえて時間がかかる」などの点から結果的に定着せず継続的な使用に至らなかった。

### 環境・健康管理

・福祉用具点検表の更新が滞り、活用出来なくなっていた  
・腰痛体操のポスターを更衣室に掲示、出勤時体温を記入する際に各自体操を行い、チェックをすることになっていたが、実施状況の確認ができず、2年目開始時には2～3割の職員しか行っていなかった

### リスクマネジメント

・各職員が腰痛の原因を付箋に書きA3用紙に貼り付ける形で腰痛リスクを抽出しようとしたが、定期的な再周知、抽出したリスクの改善が滞っていたため、意見が出ずに誰も行わなくなっていた。



## 反省点からみえた失敗要因

施設としての体制構築が機能していなかった。

具体的な計画の策定が不十分・・・

目的が可視化出来なかった

**PDCAサイクルが完全に機能していなかった**

# 教育

## 2年目

ノーリフティングケアの目的と理念を  
フロアミーティング時（全体）と実技教育  
実施時に個別指導！



まずは、指導者側が正しい技術を！  
コアスタッフ2名が技術研修に参加！  
3フロアのうち1フロア（2ユニット）をモ  
デルフロアにし集中教育！



### 結果

- ①モデルフロアの職員へノーリフティングケアの目的を全体指導、分からない職員へは理解度に併せて、個別指導を行い具体的な活動内容を伝えた。
- ②1年目に全く行えなかった実技教育を（体の使い方、今ある福祉用具の分）モデルフロア全員（9名）に行った。

ボードの使い方を伝達中！

# 福祉用具

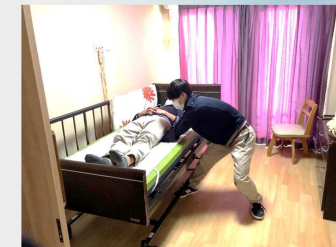
## 1年目

年度開始時、まずは今ある福祉用具の  
確認を行った  
スライディングボード→1枚  
床走行式リフト→経年劣化にて使用不可に



## 2年目

まずは、手軽に使用できる  
スライディンググローブを10枚購入



福祉用具もモデルフロアを中心に進めることに！

### 結果

- ・夜勤中の使用がメインにはなっているが、体位交換を行っていた2名の利用者にグローブを使用する事が出来ている
- ・「持ち運びしやすいように腰にぶら下げる道具を購入できない？」  
モデルフロア以外の職員6名から「個人で購入とかできない？」  
など使用に対し、前向きな声が上がってくるように！

# 個別プラン・福祉用具

抱え上げ介助からボード移乗へ

～スライディングボード導入に至った経緯～

男性 I様  
・尿道カテーテル留置  
・体重約60kg  
・座位保持可能



基本、抱え上げにて移乗を行っていたが、現場スタッフから他にいい方法がないか、相談あり

カンファレンスで移乗方法について検討

スライディングボードを使用した介助方法をフロア職員に指導し移乗変更

変更前



変更後



ボードを使用した介助に変更したこともあり、利用者の方から「こっちの方が楽やね」とい嬉しいお言葉もありました！

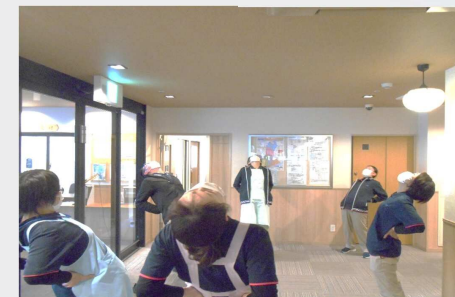
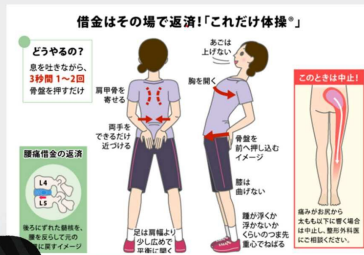
# 健康管理

～1年目定着しなかった腰痛体操定着を目指す～

## 2年目の取り組み

- ①再度、出勤時に体操を行うよう徹底的に再周知する。  
行っていない職員へは個別で声掛け行う。

- ②朝礼時に腰痛体操を実施



2年目終了時には8割以上の職員が出勤時に腰痛体操を実施することが出来た！

残り2割は？





# 環境整備

## 2年目の取り組み

更新が滞っていた福祉用具管理表を機能訓練士指導員と協力し再更新。各ユニットに掲示し職員が把握できるように（可視化）

### 改善点

- ①実施後、行動に移せていないため、課題に優先順位をつけ改善していく
- ②更新時期が定まっておらず、不定期の更新となっている状態、更新時期を明確にする（3か月）

福祉用具・機器の点検( ユニット)				
種類	項目	点検時		コメント(問題・気づき)
		○	×	
車椅子	汚れ	○	×	
	空気圧	○	×	
	ブレーキ	○	×	
	座面・クッション	○	×	
	破損	○	×	
ベッド	リモコン	○	×	
	欄、しすバー	○	×	
	センター	○	×	
	整理整頓	○	×	
介助用スライディングボード	劣化・破損	○	×	
	消毒	○	×	
滑車リフト(リジュー)	シャワーキャリーの汚れ・破損	○	×	
	リフトの上下の動き	○	×	

# リスクマネジメント

## 2年目の取り組み

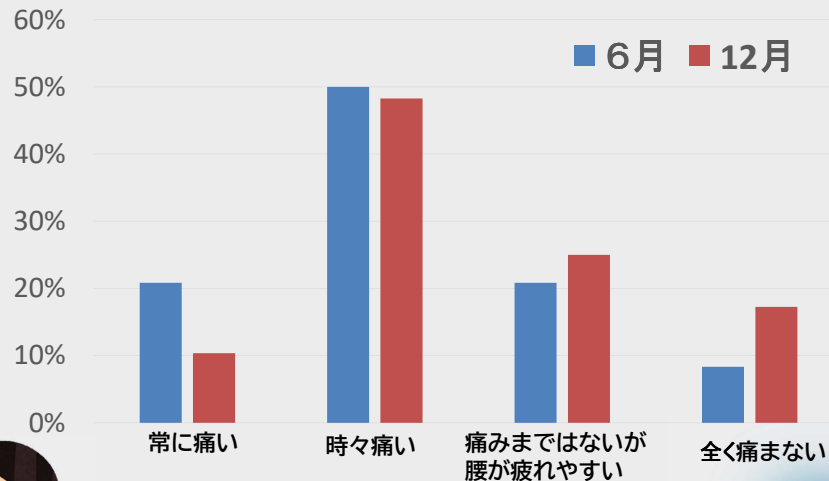
ラウンドチェック表を新しく作成し、2ユニット分、業務中の職員へコアスタッフ1名が付き添い作業中に生じる不良姿勢のチェックを1回実施後する事ができた。

### 改善点

居室でのトイレ掃除中やごみ捨て時などに不良姿勢になっている等のリスク抽出できたが改善までは行っていない。来年度は課題に優先順位をつけ改善していく。

施設ラウンドチェック表						
		点検日: 令和3年12月2日		記録者:		
ケア詳細	項目	問題なし(○) / 分からない(△) / 問題あり(×)		コメント(良いところ・悪いところ)		
		ケア内容	コミュニケーション	○		
ケア以外	居室	ベッド周辺	○			
	トイレ	掃除	△			
	洗面	掃除	○			
	廊下	掃除	○			
環境	フロア内	床	○			
		天井	○			
		照明	○			
		空調	○			
		騒音	○			
	フロア外	エレベーター	○			
		エレベーター	○			
		エレベーター	○			
		エレベーター	○			
		エレベーター	○			

# 腰痛調査の結果から見てきた現状



常に痛いから時々痛いに推移が変わったが、まだまだ腰痛とを感じる人は全体的に変わらず・・・

# 3年目の目標

○3名での活動は役割分担が難しく、何事も中途半端になってしまった。リンクスタッフも指名していたが、自分たち自身が動くのに精一杯であり、ほかのスタッフ等への協力を仰ぐことが十分にできなかった。  
→委員会メンバーを増増（決定済み）

○定期的なラウンドチェックを実施し、優先課題の洗い出し・改善を順次行う  
→PDCAサイクルの確実な実施

○1フロアの集中実施であったが、  
→「教育推進」に重点を置く。（リンクスタッフ増増計画）

○腰痛保持者を減らす！  
→福祉用具の活用や、技術研修の開催などを通して腰痛軽減を図る働きかけを行う（施設内研修の充実と確実な実施）  
→施設内環境の定期的な見直し（評価）を行い、改善

